

平成26年度実施事業に対する外部評価 議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	平成26年度実施事業に対する外部評価（共用車・バス・安全運転管理）
開催日時	平成27年9月25日（金）午後6時25分から7時25分まで
開催場所	市役所西庁舎2階 第7・8会議室
出席者氏名	会長 和泉 潤 委員 塚田 敏彦 委員 高野 晃二 委員 山口 秋男 担当課 総務部長 布川 一重 総務部次長兼財政課長 中西 直起 財政課管財係主事 青山 将之 事務局 行政経営部長 水野 悟 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課経営管理係長 山田 克仁 同主任 伊藤 雄亮
欠席者氏名	なし
傍聴者人数	7人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	外部評価（共用車・バス・安全運転管理）
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0561-56-0600
備 考	

担当課	<資料に沿って説明>
委員	内部的な管理事業は成果指標を出すのが非常に難しい。買い替えのタイミングはどう考えているのか。
担当課	概ね購入から14年経過した共用車は買い替えの対象としている。成果指標の設定は悩んでいるところ。客観的な根拠として、やむを得ず現在の成果指標としている。
委員	目標値の捉え方として、修繕は多いほうがよいのか、少ないほうがよいのか。
担当課	少ないほうがよいだろうが、必要な場合は実施しなければならない。
委員	具体的にどのような事業を行っているのか。

担当課	職員に対し、安全運転管理簿による運行前後点検を義務付け、定期的に確認することで車両の不具合を早期に発見し対応したり、適宜指導をし、安全運転意識の啓発に努めたりしている。
委員	この業務に対し、4人という従事人数は適切か。
担当課	管財係の組織構成が4人という意味である。職員は専従ではなく、全員他の業務と兼務している。
委員	運行前点検が義務付けられるが、誰が担当しているのか。
担当課	共用車を借りた職員が都度行い、使用後はその所属長の確認を得ることになっている。
委員	他の市町村の状況は存じているか。点検には専門性が求められるため、一般の企業は外部委託しているケースが多い。市の職員が直接行うことが適切かどうか。
担当課	近隣市町について、共用車は直接管理していることが多い。バスの管理は各市町で異なり、瀬戸市と日進市は外部委託、尾張旭市は必要時に随時借り上げとなっている。
委員	その点を踏まえて、今後どう考えていこうとしているのか。
担当課	市は共用車などを備品として購入しているため、直接管理している。従来は各課個別管理だったが、現在は集中管理に移行した。 使用者点検についても一考の余地があり、リース等を含めた形で今後検討していきたい。
委員	評価表をみると、修繕費が膨らんでいるように見える。専門家の知識を借りれば、修繕費が膨らむ前に買い換えるといったような意見が出るかもしれない。専門家によってチェックをする体制にしてはどうかと感じる。
委員	地方公会計適用のこともあり、物件の保有の仕方についても考えを改めていく潮流にある。共用車をリース化すれば、人件費の削減に大いに寄与すると思う。今の枠組みでは評価Aかもしれないが、今後の財政状況等によっては、他の方策を考えていく必要があると思う。 安全運転管理という点では、具体的にどのようなことを行っているのか。
担当課	安全運転の意識啓発のため、毎年安全運転講習会を全職員に対し

委員	<p>で行っている。使用前には、免許証を提示させ、アルコールチェックも行っている。また、ドライブレコーダーを一昨年度から全車に導入している。</p>
担当課	<p>平成 23 年度は評価 B で改善を行ったが、平成 24、25 年度は評価 A を続けているため、現在は問題ないということでよいか。評価 B とした後の経緯を説明してほしい。</p>
委員	<p>平成 23 年度には公用車の状態を迅速かつ正確に把握することに努めることとして評価 B としたが、通常時のチェックを行うことが日常化したため、評価 A としている。</p>
担当課	<p>また、安全運転管理者への月例報告により、前月との差異などをチェックしている。</p>
委員	<p>修繕結果が逆に問題となったことはあるか。</p>
担当課	<p>問題となったケースは起きていない。</p>
委員	<p>点検をしっかりと行うためには予算が必要である。平成 26 年度決算に対して平成 27 年度予算が減額していることはどう解釈すればよいか。ちゃんと修繕費を見込むべきではないか。</p>
担当課	<p>必要な予算は確保するよう努めている。平成 26 年度決算では特筆するところとしてバスが故障し、120 万円費やしたケースがあった。平成 27 年度は例年通りの予算措置としている。</p>
委員	<p>事業の名称が「共用車・バス・安全運転管理」とあるが、究極の目標は安全な車を使用者に提供するところにある。提供される側の満足度・充足度は把握しているか。</p>
担当課	<p>把握していない。</p>
委員	<p>安全な車を提供するという目標を表現できないだろうか。例えばバス利用について、付加価値を提供できたという観点で評価をしていただけると、いい事業になっていくのではないだろうか。</p>
委員	<p>バス利用は市民へのサービス提供にもなるため、こういった点も踏まえるとより事業効果が上がると思う。</p>
担当課	<p>バスの利用は基本的には公務の場合に限られ、直接市民に貸し出すというものではないが、結果的には市民サービスの増進につながると考えられるため、効果を測定する意義があるかもしれない。</p>

委員	事務事業の一つに加えてもよいと思う。
委員	共用車が足りないという声はないか。
担当課	季節によってバス予約が集中することがあるため、バスが不足する場合には追加で借り上げることはある。共用車はなかなか予約が取れないことがある。
委員	共用車の利用管理も事務事業に加えられるとよい。ハードの部分の管理もそうだが、ソフトの部分も現状を把握し、評価できるように検討いただきたい。
委員	一般企業だと自家用車を出張用として登録することもあるが。
担当課	公務であるため、基本的には公用車を使うようにしている。使いたいときに共用車が全て予約されている場合には、個別に交渉・調整したりするケースもある。
委員	個別に交渉・調整するのも手間がかかる。長久手市においては、移動手段の確保という課題は、もっと大きい課題として捉えてもよいと思う。集中管理を行っていることのメリットもある。適正管理の提案もできるのではないか。

まとめ	<p>1 ハード面として維持管理は評価Aが妥当と考えるが、ソフト面としてユーザーの満足度等の評価も加えていただき、評価の質を高めていただきたい。</p> <p>2 財政面の問題として、ストックを増やすのではなくフローを重視し、リースなどの活用を検討されたい。</p>
-----	---